

## 会 議 録

会議の名称	市民の皆様との意見交換会～今後のごみ焼却施設について～【第8回】
開催日時	平成30年11月30日（金）午後7時00分～午後8時25分
開催場所	東村山市 富士見小学校 図書室
出席者 及び欠席者	●出席者： （東村山市） 大西資源循環部長、肥沼資源循環部次長、 武田施設課長、濱田施設課長補佐、井上施設課計画係長
参加者数	4名
<b>意見交換記録</b>	
<p><b>19時40分 意見交換開始</b></p> <p><b>質疑応答1</b></p> <p>○発言者（富士見町：住民1）</p> <p>最初にあり方検討会を設置し進められて、それを中心に市のほうで仮の方向性みたいなものを示されたという認識でよろしいかと思うが、意見交換会での意見が今後の計画に反映されるという認識でよろしいでしょうか。</p> <p>本日柳泉園組合を見学しました。キャパの問題だが、たまたま数値を出していただいて、かなりの量があった。105t/日×3炉とのことだが、3炉稼働している日がほぼないことでした。再稼働するときにお金がかかるため、常に回しておくのが一番かからないと思います。算出されたのが100tということであるが、それを合わせると少し足りないかなという気はするが、東村山市の人口がこれから10か年以降、10年検討された後の20年以降の人口もかなり影響してくると思います。既にある施設と共同して、もしくは投資をそちらにして、ある施設をうまく有効活用する等、もう少し討議されてもよかったのではと思います。本日の説明では、データ等示されていないので申し上げられにくいですが、今後、世の中の動向をどのように判断というか、解釈されて算出されたのかと感じました。</p> <p>また、施設建設には多額の税金が使われると思うが、その点に関して市民は結構シビアだと思うので、今後数値目標に関してもう少し細かいところを見える化していただきたいと思います。そうすると、説得性、納得性が上がると思います。</p> <p>○東村山市 まず、意見の反映について、あくまで現時点で検討した中身で市として整理した</p>	

考え方を示しさせていただいたというところで、いただいた意見は持ち帰り、きちんと市のほうで検討し、基本方針につなげていければと考えております。

施設規模については、現時点の一般廃棄物処理基本計画が平成 32 年度までとなっており、人口動態と合わせて、この後 33 年度から 10 年間の計画を練る予定で、その計画を鑑み、数値と合わせて処理規模は決定していくことになると思います。大きくなるのか、小さくなるのかというところはまだわからないが、現状の想定規模は、今の計画に基づいて試算した結果でございます。

人口減少というところでは、確かにそういったところはあるのですが、市の施策として、本当にこのまま人口が減ってしまっているのかというところもあるので、その辺の施策との絡みもあり、またきちんと説明させていただきたいと考えております。

**○発言者（富士見町：住民 1）**

小学校などでごみを削減やリサイクルなどの教育がすごく盛んだと聞いています。教育等に対応できることはたくさんあると思います。設備をつくることは大事かもしれないが、それが本当に必要なのかというところをもう一回考えたほうがいい機会なのかなと思います。考えていただくのであれば、ありきではなくて、そこも踏まえていただきたいです。検討の結果、広域でやったほうが良いという結論になるかもしれません。

○東村山市 貴重なご意見感謝申し上げます。

**質疑応答 2**

**○発言者（秋津町：住民 2）**

ごみの処理量について①、②、③を足すと 2 万 6,000 t/年となっているが、①番は平成 32 年度の推計値、②番は実績値とあります。例えば今までの平成 20 年度、平成 25 年度、平成 30 年度の実績値はどのくらいあるのでしょうか。推計値というのは、それから比べてプラスに、もしくはマイナスになっているのでしょうか。これから先の人口がどの程度増えるのか減るのかを見越して推計していると思うのだが、そこら辺を説明いただきたいです。

○東村山市 燃やせるごみの平成 25 年度の実績が 2 万 4,876 t、26 年度が 2 万 4,585 t、27 年度が 2 万 4,371 t、28 年度が 2 万 3,925 t、29 年度が 2 万 3,633 t ということで、若干ではあるが、少しずつ下がっております。推計値と比較した場合、若干ではあるが、実績値のほうが上回っています。

**○発言者（秋津町：住民2）**

ということは、市としては、今までのごみ行政は変えないということでしょうか。

**○東村山市** 現在策定している一般廃棄物処理基本計画があり、32年度までは右下がりの計画です。来年度の平成31年度以降に、今後の計画をまた作る中で、この間の減量の取り組み等も反映させていただきます。若干、右下がりの傾向にはなっており、先ほども小学校の取り組みのお話があったが、いずれにせよ、ごみを減らしていくことは、広域でやるか、どこでやるにしても、重要な施策であり、その辺のことも踏まえて今後の計画を作らせていただきたいと考えております。現時点の数値の中では約100tということで説明しているが、来年度以降策定する今後10年間の計画また人口動態等を鑑みて数値等はこれから決めていくような形になると考えております。

**○発言者（秋津町：住民2）**

いずれにしろ、今の焼却ありき、秋水園に焼却炉があるので、それを代替する同じような設備、施策を変える必要のない同じような施設を作ることが、市としては一番楽なのではないでしょうか。

**○東村山市** 現時点で、容器包装プラスチックだとかペットボトル、ビン、カン、資源物の収集等をやらせていただいております。また、生ごみの集団回収等も行っており、現時点で算出しているところでは、いわゆる資源ごみ以外の、可燃ごみについて焼却方式で処理しており、他にもバイオなどいろいろ処理方法があると思うが、焼却ありきではなく資源化できるごみ以外のごみに関して。

**○発言者（秋津町：住民2）**

分かります。基本的に小学校の教育だとか市民の教育を含めて、ごみ処理の方法を変えることはできないのでしょうか。東村山市にはもう20年も前に出ている98プランがあり、脱焼却、脱埋め立てといった、とてもすぐれた計画があるが、それが頓挫してしまって、20年もそのまま、お金が余りかけられないので焼却炉をメンテナンスしながら維持してきました。98プランのような計画がありながら、また同じ焼却方式を、お金をかけてやるよりは、もう一回、脱焼却とか脱埋め立てだとか、基本に帰って、ごみがなくなる、周辺住民にも迷惑をかける、市民が税金としても余りかからないようなごみの処理の基本的な政策を考え直すいい機会ではないのでしょうか。決して遅いということではないと思います。

**○東村山市** 98プランについて、現在、10年間やっている一般廃棄物処理基本計画の中でも、

98 プランを引き継いだ、ごみの推量という形になっております。これから 10 年間の計画をつくる中には、いわゆる焼却ありきではなく、ごみの減量ということは市の姿勢として取り組ませていただいております。

**○発言者（秋津町：住民 2）**

しかし、100 t をもとに、これから先のいろいろな実施計画みたいなところに移っていくのではないのでしょうか。

**○東村山市** はい。燃やせるごみの推計値がこれから変動する可能性があるので、現時点では仮に 100 t ということで先ほど説明したが、この数値が下がってくればまた 90t、80t ということも当然考えられます。③番の災害廃棄物量についても、大規模災害が起きたときの災害廃棄物処理計画について、現在パブリックコメントを行っているところで、ここの数値もまだ固まっておりません。現時点ではおおよそ 2,300 t ということで考えさせていただいていますが、これらを踏まえて総合的に、施設規模が 100 t になるのか、それより下がるのかというのが今後の基本方針、基本計画の中で、特に設計の段階で決まってくると考えております。

**質疑応答 3**

**○発言者（秋津町：住民 3）**

98 プランからもう 20 年たっているが、20 年間かけて、ごみをどれだけどのようにして減らす努力をされたのか、その点を教えていただきたいです。

**○東村山市** 20 年間の取り組みをということだが、98 プランで示された脱焼却、脱埋め立てということは、一般廃棄物処理基本計画の施策の取り組みの中で、資源として取りだせるものは分別すること、減量施策として生ごみは燃やせるごみの中から抜いていくこと等を、市の取り組みとしてやってきております。98 プランを網羅しているわけではないが、少なくともその当時の思いを引き継いだ中で、市としても施策を進めております。焼却灰について、当時は埋めていた部分もあるが、そこについても埋めないで、多摩地域でエコセメントとして資源化をすることができているので、決して、98 プランが頓挫したと考えておりません。今もその施策の中で取り組んでいると、私どもは認識しております。

**○東村山市** 補足ですが、例えば総資源化率が、平成 7 年度当時は 10% 後半であったのが 16 年度の時点で 25% にまで向上し、平成 18 年度の計画における平成 22 年度推定値は約 4 万後半であったが、25 年度の段階では先ほど言った数値まで下がっているのです、この間、市民の皆様の

御協力もあり、ごみの量についてはかなり減ってきております。あわせて、東村山市はここ数年、一世帯当たりの市民一人当たりのごみの排出量及びリサイクル率が人口 10 万人以上、50 万人未満の自治体の中で全国 10 位以内となっており、この辺につきましても、この間の 98 プランをはじめ、市民の皆様からいろいろ御協力、御指導をいただいている結果ということで、市全体としては右下がりの処理量という形で推移しているところでございます。

**○発言者（秋津町：住民3）**

どこの部分のごみが、どのように下がったかというのはわかるでしょうか。例えばどのくらい回収率がふえたなど。

**○東村山市** ごみの搬入量、例えば平成 29 年度と平成 25 年度の比較で、総量 4 万 538 t が 3 万 8,383 t になっています。内訳としては、燃やせるごみが平成 25 年度には 2 万 4,876 t が平成 29 年度には 2 万 3,633 t、燃やせないごみが 2,089 t だったのが平成 29 年度には 1,980 t。また粗大ごみのほうは逆にふえ、平成 25 年度では 1,384 t だったものが平成 29 年度には 1,406 t、資源ごみについては平成 25 年度における 1 万 2,189 t が平成 29 年度は 1 万 1,368 t ということで、総体的に右下がりの傾向になっております。

**○東村山市** 平成 15 年度ぐらいからの統計では、人口が平成 15 年度のときが 14 万 5,166 人、それに対して集団回収を除くごみの排出量が可燃、不燃、粗大、全部を含め 4 万 2,161 t。平成 16 年度では、人口が 14 万 6,100 人、ごみの排出量が 4 万 1,588 t。平成 17 年度が、人口 14 万 6,786 人、ごみの排出量が 4 万 2,234 t。平成 18 年度の人口が 14 万 7,411 人、ごみの排出量が 4 万 1,948 t。平成 22 年度、人口は 15 万 3,142 人に対して、ごみの排出量が 3 万 8,515 t。平成 26 年度、人口は 15 万 1,412 人に対して、ごみの排出量が 3 万 6,986 t となっております。これまでの一般廃棄物処理基本計画においては、処理だけに限らず、処理するに当たっての減量施策などが実を結んでおり、人口は当時よりも多くはなっているが、総体としてごみの排出量は減っているという状況でございます。

**○発言者（秋津町：住民3）**

98 プランのときのように、市民にこれでもかというぐらい分別ということを訴えかけて、例えばトレーだとかペットボトルとか、そういうものは極力お店に返すとか、三世帯集まったら、生ごみをただで集めるというのを、市報に少し載せるというのではなくて、もっとアピールして、98 プランのときにおいては結局、秋水園が昭和 37 年からあり、また秋水園で建て替えるのは申しわけないという中で、富士見町や廻田町の人だって、自分のところに建てられた

ら絶対嫌だという思いがあったので、どこにも建てないようにするためにはどうすればいいかという中で、いろいろなことをやって資源化できるという、できたわけではないか。98 プランが世界一すごいプランであったのに、いつの間にか、また同じ場所で、全く同じ様に建てる。あの時、みんな自分のところは嫌だからこうしようという、あの精神は本当に今度のプランの中で、市が出してきている中でどういうふうに整合をつけたのか。市議会などでも、98 プランについてここまでやったけど、これから先をどう進めていくかというのを、私が知っている限りでは、はっきりやっていたことはないです。もしかしてやっていたら申しわけないが。あれだけ新聞にも載って、みんなで減量しようよ、市はお金がないのだから施設を建てないでみんなで減量していこうといったのは本当にどうなってしまったのかと思います。

また、昭和 37 年から建っていたところに、また建てるということは公平性という観点からどうなのでしょう。原野の中の、山の中か何かにあるのならまだしも、住宅が建ち並んでいる地域にまた平気で建てる。例えば、広い公園を近くに整備する等の地元への配慮があるならまだしも、何にもやらないでいて、またこういうことをするというのは、秋津の住民としてはとても納得できません。

本日、富士見町の若い方が来てくださっているが、全然市民の問題になっていないと思います。ほかの方にとっては全く問題になっていなく、秋水園でまた建て替えることは良かったなんていって、ますますごみ量が増えるかもしれない。100 t だとか災害廃棄物のことを、これからパブリックコメントでやっていくから、要するに増やすということですよね。簡単に言ってしまうと。説明会では 100 t と言っているけれども、実際できたら 120 t ぐらいになってしまう。そういうことでしょうか。私も柳泉園を見学したが、本当にあんなに空いているのだったら、入れたらどうかと思う。自分が嫌だから、よその市にお願いしますとは言いたくないが、そんな状態になっているのに、もっと本当にみんなで減らしたら、作らなくてもよくなるのかなという気がします。福祉とか教育とか、そういうところに回してほしいです。決して、秋水園で働いている方の健康にとって、焼却方式がいいと思わないです。だからぜひそこら辺のところ、98 プランのことをどのように整理するのかを、議員にもしっかりしてほしいです。

○東村山市 まず、秋津に作る、作らない以前に、98 プランの話ではないが、単独にするにせよ、広域で他市に持っていくにせよ、市内でほかの場所にするにせよ、今おっしゃったような、ごみの減量の問題は必ずついてきます。市としては秋津がどうこうということではなく、先ほど申し上げたように、今後の取り組みとしては当然どこかでごみは処理しなくてはいけな

いです。うちで出ているものは皆さんで我がこととして共有して減量していただくというのは必要なことであり、その部分が、先ほど説明したとおり、98 プランから始まり、この間の減量施策ということになっているので、至らない点はあるが、引き続き、市としても排出抑制に努めてまいりたいと考えているところでございます。

また、災害廃棄物について補足だが、これは国から各市で計画を作って下さいとのことで、要は大震災や水害など、いわゆる激甚被害が起きたときには、それぞれの自治体で推計値として、被災家屋等から出る災害ごみ、それから被災した状態で生活した場合にでる日常ごみ、それらが処理できるような計画を作って下さいということであり、その部分が先ほどの③番目に記載されております。要は、日々排出されるごみプラス若干の余裕ということではなく、災害廃棄物のことも見ていかなくてはいけないということで、計画を作らせていただいているので、災害にかこつけて、何でも燃やしてしまおうということではなく、災害時に出たごみの処理ということで、国の定めにより、ある程度こちらのほうも見ていかなくてはならないこととなっております。当然広域の中でも見ていかなくてはならないこととなります。

あと、コストのお話、これは非常に大事なお話です。単独にせよ、広域ですと負担金という形になるので、最近では昭島市と羽村市が広域の関係で、羽村市に昭島市が最初入るよというお話があったのだが、分担金で折がつかなかったということで、昭島市が撤退するというようなお話もあり、様々な問題があるので、単純に広域化したときに費用的なメリットが出るかどうかというのは、引き続き方針を作っていく中できちんと精査して御提案できればと思っていますところでございます。

#### ○発言者（秋津町：住民3）

場所選びに関して、秋津はもう 57 年、あと 10 年で 67 年になります。これで作って 100 年以上となります。もう 67 年もお世話になっている地域はもう候補地から外すべきことではないかと思えます。一部地域にこれだけ負担をかけるということを行政の方たちはどのように考えているのでしょうか。空から降ってくるものは決してきれいなものではないと思えます。それは、いろいろなものをつけて処理をしていますと言っても、決してゼロではないと思えます。喘息のことを言えば、因果関係はないとおっしゃるかもしれないが、それだって、因果関係がないといっても、ゼロとは言えないと思えます。そういう地域に 100 年以上もお世話になることは、市として恥ずかしくないのでしょうか。一部地域だけにこれだけ、同じ税金を払っているながら、なぜ秋津だけに負担をかけなければならないのか、その点が私はどうしても理解で

きません。その点について市の考え方を教えていただきたいです。

○東村山市 この件について、何度も御回答を差し上げていますが、現時点で秋津に決めているわけではございません。このような会を開き、皆様の御意見を再度検証させていただいて、どこに実現可能性があるのか。また、市として恥ずかしくないのかというお話があったが、例えば用地が実際にあるのかなどの含めた費用の問題。例えばどこかで用地取得ということになれば、その部分の土地の取得費等が、建設費用のほかにかかります。意見の中では焼却炉ではなくて、他の方法でいいのではないかとか、ごみの減量を進めて、さらに工場も小さくして、なるべく費用がからないようにしたとしても、用地取得費などあり、その場合は、そこにまた税金を使うので、収集コスト、有料ごみ袋の料金にかかるかということがあります。それら全てを検討させていただいた上で、先ほど申し上げた方針をつくる際には再度、例えば意見交換会のほかに現時点ではワークショップ形式で市民の皆様同士の意見交換をしていただくなど、そういったものを踏まえながら選定を進めてまいりたいと考えているところでございます。

○発言者（秋津町：住民3）

どこの地域も、迷惑施設を作ってほしいというところはないはずなのです。それはもう最初からわかっていることです。だったら、脱焼却・脱埋め立てをうたっていたのだから、それになぜ近づけていただけなかったのでしょうか。今になって、場所がないと言う前に、もう秋津には作れないのだ、だからほかの地域で探さなければいけない。ではほかの地域はどこも受け入れてくれないのだったら、焼却炉はつくらない。そういうことでやっていくべきではなかったのではないかと思います。

○東村山市 その辺の御意見は重々頂いております。遅いのではないかとということがあるが、炉の寿命というのもあるので、例えば炉が止まってしまうと、ではごみをどうするのかという問題も起きます。後ろに合わせて、どのような形で実現できるのかというのは今後検討させていただきたい点でございます。しかしながら、新しいごみ処理施設を建てる周辺区域に対する対策はどうするのかという御意見もいただいておりますので、こちらのほうも踏まえ、今後の方針策定の参考意見とさせていただきたいと考えているところでございます。

質疑応答 4

○発言者（住所不明：住民4）

先ほどから言っているとおり、東村山市としてごみにどのように今後向き合っていくのかと



いう目標が余りにも低すぎるのではないのでしょうか。今まで現状がこうあるから、これをちょっと減らしていけばいいというような目標の立て方をしていると。それはもう、秋津に秋水園があるのだから、それだけ能力があるのだからやっしまえばいいのではないかと。それよりも、例えば市役所のすぐそばの場所に建てられるごみ処理施設は、どんなものができるのだろうか。それは焼却ではなくて、もちろんいろいろな設備があると思うのですが、そういうのを市のこれからの行政の目標にしていったらどうなのだろうか。そうすれば、この負担をみんな均等に分かち合えましょうと。もう秋津町に何十年もごみ処理施設があるが、その負担は、ほかの町では余り感じていないです。恐らく。自分たちが出しているごみがみんな秋水園に行って、秋水園で燃やしていて、そこにはパッカー車が通り、そういったことを意識してごみを出している人は多分いないと思います。それは教育ではないのでしょうか。行政が市民に対する教育で、自分たちの出しているごみはこうやって、こういう道路を通過して秋水園に運んで、燃やしているが、それがいいことなのかみんな考えましょうよと。そんなところで新しい計画を作ったっていったら、もっといいものができるのではないのでしょうか。目標はもっと崇高な目標になったらいいと思います。

○東村山市 引き続きそのところについては、ごみ減量施策について尽力してまいりたいと考えておりますので、で御指導等をよろしくお願い申し上げます。

#### 質疑応答 5

○発言者（富士見町：住民1）

余熱再利用などは踏み込んで検討されるのでしょうか。

○東村山市 例えば焼却方式とした場合、新しい施設において、余熱の利用等を検討することになります。

○発言者（富士見町：住民1）

先ほどの近隣の住民の方という視点とは、少し違う視点かもしれないが、福利的な余熱の利用などは考えていないのでしょうか。

○東村山市 現時点では、あくまで、この先の施設をどうするか、処理をどうするかという話の中の基軸の部分を検討している段階なので、付帯設備をどうするかというのは、基本方針が固まった後に、検討を行うことになると考えております。

**○発言者（富士見町：住民1）**

受け手としては、炉のことを言われても、なかなか炉のマイナスしか出てこないと思います。なので、そこに住まわれている方には大変申しわけないが、そこの方が納得するような、車の動線の整備や、車を新しくエコにするなど、そういったことを見えるようにすること、環境に良いなど、そういったことがすごく重要な気がします。こういうことを一回やっても多分解決しないので、あとはもう時間がないので決めますというようなことになると思います。ソフトは確かに次かもしれないが、我々にとっては逆にソフトのほうが重要だと思います。でなければ納得できないのではないのでしょうか。

**○発言者（秋津町：住民2）**

今の御意見の通り、こういう町に生まれ変わるから焼却炉を建てましょうよという提案であったら、納得すると思います。

**○東村山市** 貴重な御意見、感謝申し上げます。いただいたご意見を参考に、基本方針の中にソフトの面も取り込めるかどうか、検討して参りたいと思います。

**20時25分 意見交換会終了**